

第3章 新市建設の基本方針

1 新市のまちづくりの理念

本地域には、菊池溪谷や鞍岳等に代表される豊かな自然環境があります。

そこから流れ出す「水」による肥沃な農地が菊池川や合志川沿いに広がり、さらに各地域に温泉を利用した施設が点在しています。

また、これらには、人の気持ちを穏やかにしたり、活力を与えたり、安堵感を与えるなど、目に見えない効果があると言われています。

このようなことから、豊かな自然環境を守っていくとともに、これらが与えてくれる恩恵をまちづくりに活用することを、新市のまちづくりの方向性の基調とします。

基調のもとに、以下に示す3つのまちづくりの方向性を設定しました。

人々がつなぐ歴史や文化をまちづくりに活用

本地域は、南北朝時代は菊池一族の統治により、九州における政治の中心として栄え、政治、教育、文化面において大きく影響を与えており、地域内には多くの遺跡が残っています。

また、明治期には、良質の城北米（菊池米）の生産と農業技術の改良によって「肥後農法」が確立された地域でもあります。これらの歴史的背景は、各市町村の今までの地域づくりに、脈々と受け継がれてきており、これからの未来（将来）にも繋げていくべきものです。

これまでの歴史的背景や文化を継承するとともに、人々が、これから新たに築く歴史や文化をまちづくりに活用することを、新市のまちづくりの方向とします。

人々が織りなすやさしさをまちづくりに活用

まちづくりに対する住民のニーズは、物の豊かさだけでなく、生活空間の中の快適性や安全性の確保、景観や自然環境の保全、少子高齢化などの社会情勢や経済情勢の変化に対する対応など、多種多様に変化してきています。

これらのニーズを満たすためには、必要としている人の意見に耳を傾け、その人の立場になるなど、自分以外への思いやり、やさしさを持つことが重要です。

生活空間の形成においても、人々が織りなす思いやり、やさしさをまちづくりに活用することを、新市のまちづくりの方向とします。

人々が生み出す活気をまちづくりに活用

本地域の農業は、県下有数の農業産出額を誇り、畜産、野菜、米等、多彩な作目が生産されており、環境に配慮した安全で高品質な農産物づくりが進められています。

工業では、空港及び高速道路へのアクセスに恵まれていることから、数多くの企業が立地し、製造品出荷額は県下で上位に位置しています。

さらに、豊かな自然や歴史、温泉等の資源を活かした商業・観光振興や季節ごとの祭りなど多彩な取り組みがなされており、バランスのとれた魅力ある定住拠点として約5万3千人の人々が暮らし、さらに今後も発展が期待されています。

このような豊かな産業基盤と自然に支えられた特色ある活気を、新市の人々が生み出す活気として、まちづくりに活用することを、新市のまちづくりの方向とします。

以上に示すまちづくりの方向性を踏まえ、新市のまちづくりの理念を設定しました。

●新市のまちづくりの理念

“豊かな水と緑、光あふれる田園文化のまち”

～菊池北部の豊かな自然環境や歴史を活かし、人のやさしさで作りあげる
健康で活力のあるまちづくり～

これまでに築き上げられてきた豊かな自然環境の恵みの形成には「光：太陽の光」が必須条件であったように、新市のまちづくりのベースとなる自然環境の保全活用にも「光：太陽の光」は欠かせないものと考えます。

今後、「菊池北部の豊かな自然環境や歴史を人の営みに活用し、人のやさしさで作りあげる健康で活力のあるまちづくり」を目指して、豊かな自然環境の恵みを基調とした3つのまちづくりの方向性に沿って、夢や希望が持てる新市のまちづくりを推進していきます。

今日まで本地域を育ててきた「光」に新市の夢や希望を重ね、それらがめぐり広がることを「光あふれる」と表し、歴史や文化を活用した健康で活力のあるまちを「田園文化のまち」と表現しました。

2 新市の将来像

新市のまちづくりの理念を踏まえ、新市が目標とする将来像を、3つのまちづくりの目標として設定しました。

●まちづくりの目標

水と緑に育まれた ^{こころ}「心のふるさと」づくり

新市の豊かな自然環境を基盤とし、これまでの歴史的背景や文化を伝えてきた文化財の保護や地域文化の振興を応援し、個性ある地域づくりを推進します。

また、生涯学習を推進し、地域の将来を担う心豊かな子どもたちを育むとともに、スポーツや世代間交流の振興を図り、生きがいのある社会環境を形成します。

さらに、行政が立案する計画への住民参画や住民活動の支援・育成等を行い住民参加の体制づくりを推進します。

このような施策を展開することにより、「豊かな自然環境を基盤とした歴史・文化・生きがいのあるまちづくり」を推進します。

●まちづくりの目標

水と緑に包まれた ^{そうかい}「爽快ふるさと」づくり

新市の豊かな自然環境に包まれた都市域の中で、住宅・住環境の整備や公園、上下水道の整備を行うことにより快適な住環境を確保します。

地域住民の手による自然景観の保全や美しい田園都市の形成、地域住民の助け合いにより、高齢者や子どもが安心して暮らせるまちづくりを推進します。

また、すべての住民に必要な健康や医療、福祉の充実を図ります。

このような施策を展開することにより、「豊かな自然環境に包まれた快適で安心できる生活空間を創造するやさしさのあるまちづくり」を推進します。

●まちづくりの目標

水と緑を活かした 「^いいき^いいきふるさと」づくり

新市の豊かな自然環境を保全するとともに、計画的な土地利用をすすめ、菊池川水系がもたらす肥沃な大地を基盤とした農林水産業の振興や菊池溪谷、温泉等の自然の恵みを活用した観光の振興、さらに、地場産業の育成と企業誘致、商業地の活性化を推進します。

また、農林水産業と観光を連携させたグリーンツーリズムや情報通信網の整備と産業への活用等、社会経済情勢に対応した特色のある産業の振興を推進します。

さらに、新市に必要な都市機能拠点を整備するとともに、広域的な視点から計画的・機能的な交通ネットワークの整備を推進します。

このような施策を展開することにより、「豊かな自然環境を活かした農林水産業・観光・商工業を主軸とした活力のあるまちづくり」を推進します。

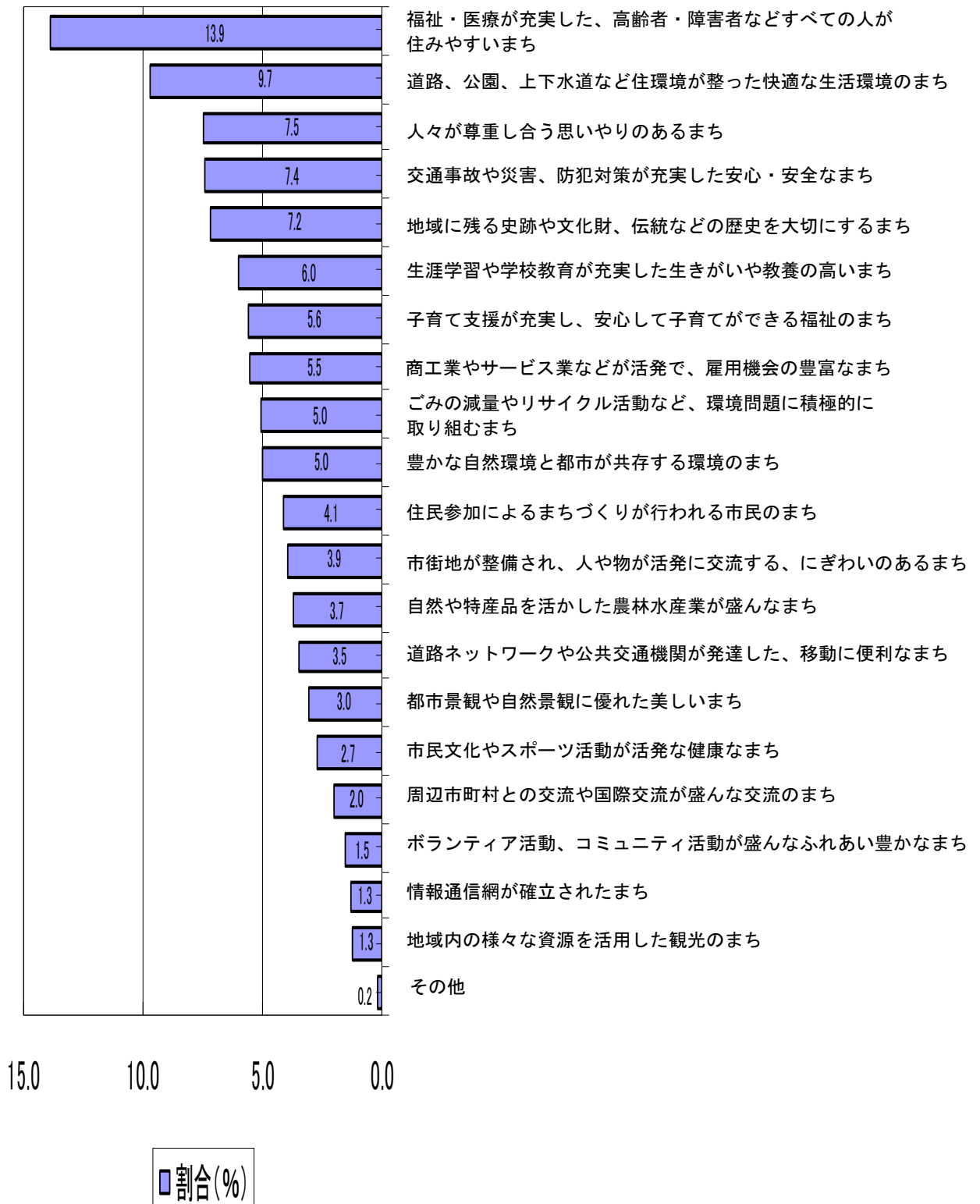
■住民アンケート調査による住民意向

住民アンケート調査結果において、新市の望ましい姿としては「福祉・医療が充実した、高齢者・障害者などすべての人が住みやすいまち」が一番多く、次に、「道路、公園、上下水道など住環境が整った快適な生活環境のまち」、「人々が尊重し合う思いやりのあるまち」、「交通事故や災害、防犯対策が充実した安心・安全なまち」、「地域に残る史跡や文化財、伝統などの歴史を大切にすまち」が多くなっています。

これらの上位5項目を整理すると「福祉、快適、人、安心・安全、歴史・文化」がキーワードとして上げられます。

これらのキーワードに代表される住民アンケート調査結果の住民意向を十分に踏まえ、前述した新市のまちづくりの理念や将来像を設定しました。

新市の望ましい姿（住民アンケート調査）



3 新市の都市構造

新市のまちづくりの目標である「水と緑に育まれた“心のふるさと”づくり」、「水と緑に包まれた“爽快ふるさと”づくり」並びに「水と緑を活かした“生き生きふるさと”づくり」を実現するため、新市の骨格となる広域連携軸や地域連携軸を位置づけ、さらには都市機能の拠点整備を明確にすることにより、新市の都市構造の考え方を示します。

◇広域連携軸

国道 325 号、国道 387 号、県道植木インター菊池線及び菊池グリーンロードを新市の広域連携軸として設定し、周辺市町村や県内の他市町村との文化・産業等の交流を促進するとともに、九州自動車道植木 I C 及び熊本空港とのアクセスを強化し、九州及び全国との広域交流を促進します。

◇地域連携軸

広域連携軸を補完する県道及び市町村道を地域連携軸として設定し、新市の全域をネットワークすることにより、市民間の交流を促進するとともに新市全体の均等ある発展を推進します。

◇行政拠点

市民の利便性を重視し、新市の地形や人口の分布に配慮した位置に、新市の行政拠点を新たに設置するものとします。

また、旧市町村の庁舎は、市民サービスに配慮し、市民に対する情報発信や地域における行政サービスを行う身近な行政拠点として再構築し、有効活用を図ります。

◇商業拠点

中心商業地を新市の商業拠点として設定し、多様化する消費者ニーズに対応するとともに、他分野との連携を深めることにより、魅力ある商業地の形成を推進します。

◇工業拠点

既存の工業団地及び周辺の工場適地を新市の工業拠点として設定し、広域連携軸へのアクセス強化や研究機関との連携、新たな優良企業の誘致を促進することにより、工業集積地としての機能強化を推進します。

◇福祉・健康拠点

市民が日常的に集まる行政拠点、商業地及びその周辺地域を新市の福祉・健康拠点として設定し、市民の交流の場及び健康維持・増進の情報管理・発信拠点の形成を推進します。

また、拠点を整備することにより、市域に点在する社会福祉施設等との連携を図り、施設の有効活用を促進します。

◇文教拠点

公共交通機関等の利便性の高い地域周辺を文教拠点として設定し、教育施設の充実や高度高等教育機関の誘致を図るとともに、その教育施設を核としたひとづくり・まちづくりを展開しながら、教育環境の充実を推進するとともに、地域への情報発信を行う等により、教育機関の多様化や個性化を促進します。

◇観光交流拠点

温泉や河川、湖、田園、山々等を利用した既存観光施設周辺を観光交流拠点として設定し、周辺地域の環境を保全するとともに、環境に配慮した施設の整備充実やイベントの開催等を図ることにより、自然とのふれあいから人々の自然環境に対する理解を深め、みどりの中のにぎわい空間を創出します。

4 ゾーン別まちづくりの方針

新市には四市町村から受け継いだ魅力ある資源や産業の集積があり、これらの地域の特性を活かしたまちづくりを推進するため、以下に示す4つのゾーン別のまちづくり方針を設定しました。

◇清流・緑・ふれあい体験ゾーン

新市の東部地域は、阿蘇くじゅう国立公園が広がり、公園内には、国立公園の一峰である鞍岳、菊池溪谷等、豊かな自然環境を形成しています。

これらの自然環境に恵まれた地域については、「清流・緑・ふれあい体験ゾーン」として設定し、自然環境や生態系の保全に努めるとともに、自然とのふれあいやすらぎを与えてくれる場としての活用を推進します。

◇環境・田園・やさしさ体験ゾーン

新市の住宅地域は新市西部に集中しており、東西に横断する菊池川及び合志川を中心に形成しています。

これらの住宅地域を「環境・田園・やさしさ体験ゾーン」として位置づけ、新市の農業生産の基盤として営農環境の維持保全に努めるとともに、居住環境の改善やコミュニティの強化を推進します。

また、生活道路や身近な公園・緑地、上下水道等の都市基盤の整備を推進するとともに、美しい田園都市にふさわしい景観整備を推進することにより、快適で魅力的な市街地環境

の形成に努めます。

さらに、地域コミュニティを活用した防犯・防災体制の充実を図るとともに、健康・福祉・医療においても、その役割を強化し、すべての住民が安心して暮らせる住環境の形成を推進します。

◇交流・文化・にぎわい体験ゾーン

新市の商業市街地は、国道 325 号と国道 387 号が交差する付近を中心にする地域と国道 387 号と合志川が交わる付近を中心に形成しております。

商業市街地周辺を「交流・文化・にぎわい体験ゾーン」に設置し、個性ある商店街の形成や新たな商業集積を促進することにより、市民が交流する魅力ある商業地の形成に努めます。

また、福祉や芸術文化活動等との連携を図ることにより、利便性や文化性を持った市民が集えるにぎわいのある商業空間の形成を推進します。

◇技術・魅力・かつりょく体験ゾーン

新市の工業地域は、新市南部の国道 325 号、国道 387 号沿線及び新市西部の市境付近を中心にする地域に工業団地を形成しています。

工業集積地周辺を「技術・魅力・かつりょく体験ゾーン」として位置づけ、工業拠点としての整備を推進することにより、最先端技術の集積地の形成を目指します。

また、若者に魅力ある工業集積を図ることにより、若者の定住を促進し、活気あるまちづくりを推進します。

【新市の都市構造図】

